

平成 20、21 年度  
中期目標の達成状況報告書  
(別添資料)

平成 22 年 6 月  
名古屋大学

## 目 次

資料 1-1-1	英語新カリキュラムの概要	1
資料 1-1-2	英語成績分析	2
資料 1-3-1	大学教育改革フォーラム in 東海 2010	2
資料 1-3-2	授業改善のためのセミナー	3
資料 1-3-3	哲学教育研究会	3
資料 1-3-4	FD 地域ネットワークの役割に関するセミナー	3
資料 1-3-5	教務事務担当者実務研修参加者数	3
資料 1-3-6	POD 年次大会	3
資料 1-3-7	「ラーニング・コモンズ」概要	3
資料 1-3-8	「エース・ラボ S」の基本構想	4
資料 1-3-9	物理学実験予習用 e-Learning 教材画面	4
資料 1-3-10	物理学実験報告より抜粋	4
資料 1-3-11	学生ごとの物理学実験終了時間の分布	4
資料 1-3-12	「eFACE」の教材構成	5
資料 1-3-13	「がんプロフェSSIONAL養成プラン」事業作成 e-Learning コンテンツと受講者数	5
資料 1-4-1	南部食堂の全面増改築	6
資料 1-4-2	インターナショナルレジデンス山手新築	6
資料 1-4-3	陸上競技場トラックの全天候化	6
資料 2-1-1	名古屋大学レクチャー	7
資料 2-1-2	日本学士院賞受賞記念講演	7
資料 2-1-3	グローバル COE 採択一覧	7
資料 3-1-1	ノーベル賞受賞記念特別展	8
資料 3-1-2	地球教室	8
資料 3-1-3	名古屋大学におけるノーベル賞研究展示	8
資料 3-1-4	コンサートの様子	8
資料 3-1-5	博物館入館者数の推移	8
資料 3-1-6	「ふみよむゆふべ」活動状況	8
資料 3-1-7	全学同窓会海外支部	9
資料 3-1-8	ホームカミングデイの様子	9
資料 3-1-9	名古屋大学創立 70 周年（創基 138 周年）記念行事の様 子	9
資料 3-2-1	国際化拠点整備事業について	10

## あなたの英語は 世界に通用しますか？

専門書を  
**読む**

論文を  
**書く**

学会で  
**発表**

世界に通じる英語を学ぶ、名古屋大学の英語。

### Academic English 教育

#### 1 導入段階

英語 (基礎)  
(Academic English Basic)

- 1年前期 (40人授業)

学術的な英文に関するリーディング能力とライティング能力を養成する。初級段階に加え、課外学習として、eラーニング教材「まっつとoj」中級リーディング/ライティング (週2時間) を履修する。

英語 (サバイバル)  
(Academic English Survival)

- 1年前期 (40人授業)
- ICコース対象

英語基礎知識の再確認を図る。「まっつとoj」文法/初級リーディング/ボキャブラリーで備える。合格評価を得られない学生は2年次開講の英語授業を受講できない。

#### 2 進捗段階

英語 (中級)  
(Academic English Intermediate)

- 1年後期 (20人授業)

英語 (基礎) で学んだ英文の基本的論理構成に関する知識を用いて、より高いレベルの英文読解、英作文を行う。課外学習は「まっつとoj」上級リーディング (週1.5時間)。

英語 (上級リーディング) 1/2  
(Advanced Reading)

- 2年前期/後期 (40人授業)

【文学部対象】  
高いレベルの、多様な英文の読解を行うとともに、現代社会における英語文化についての深い教養を養う。

#### 3 発展段階

英語 (上級)  
(Academic English Advanced)

- 2年前期 (20人授業)

学会、企業等で必要とされるプレゼンテーションを行えるよう、リーディング/ライティング/リスニング/ライティングの各能力を高め、それらの統合を目指す。課外学習は名大独自開発eラーニング教材「eFACE」 (週2時間)。

英語 (セミナー)  
(Academic English Seminar)

- 2年後期 (20人授業)

英語・英語文化についての深い教養を身につける。課外学習は大学向けeラーニング教材「Listen to Me! College Life」 (週2時間)。

### 名大英語の特徴

**精上げ方式**

- 基礎から中級、上級へ
- 基礎の復習

**クラス編成**

1年前期は習熟度別 (A・B・Cコース) クラスで授業

**学術英語 (Academic English)**

- Paragraph Reading
- Paragraph Writing
- Presentation

**特定知識 (分野特化)**

- TOEFL-ITP 試験
- Criterion 試験 (全員受験)

**eラーニング**

自ら進んで学習できる環境  
● 課外学習  
● アカミカ/インカワ支援部門

**特別英語セミナー**

習熟度の高い学生の  
より高いレベルへの読解

## 自己教育力の養成を通じた国際基準の Academic English 教育

対面授業

自己教育力

e-Learning

実質化の確認

### 実力判定試験 (TOEIC IP)

2年後期

英語 (セミナー)  
英語・英語文化

2年前期

英語 (上級)  
4校部の統合とプレゼンテーション能力養成

大学向け教材  
名大独自開発教材  
eFACE

### 実力判別試験 (TOEFL+Criterion)

1年後期

英語 (コミュニケーション)  
ディスカッション/プレゼンテーションの基礎力養成

1年前期

英語 (中級)  
エッセイ・リーディング/ライティング

1年前期

英語 (基礎)  
ハラクラフ・リーディング/ライティング

初級読解・文法  
ぎゅつとe (英語教材)

学習履歴

学習者の  
コミュニティ

Academic English  
支援部門

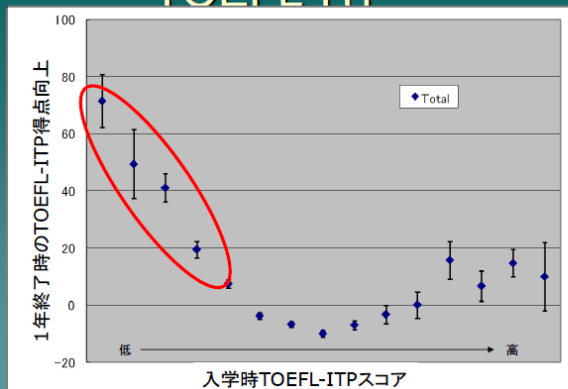
実行  
学習支援の  
計画  
コミュニケーション  
改善

メンター  
サポーター  
アドバイザー

英語科 (名古屋大学教養教育院) <http://eigo.lang.nagoya-u.ac.jp/> ©2016 Nagoya University

資料 1 - 1 - 2 英語成績分析  
対象：平成 21 年度入学者

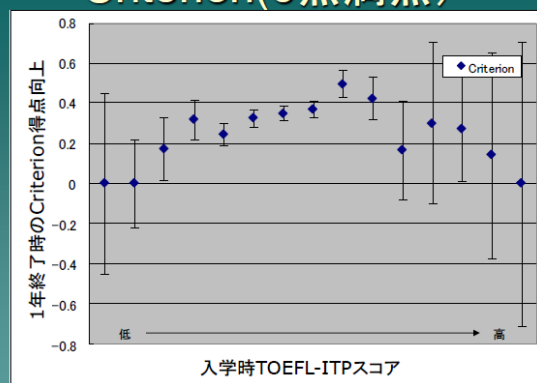
## TOEFL-ITP



横軸に4月のTOEFL-ITPスコア、縦軸に入学時と1年終了時との差をプロット。プラスは得点が向上した事を意味する。Cコースの学生には非常に大きな成績の向上が見られ、英語力の底上げという目標を達成している。

1

## Criterion(6点満点)



横軸に4月のTOEFL-ITPスコア、縦軸にCriterionの入学時と1年終了時との差をプロット。パラグラフリーディング・ライティングを旨とした新カリキュラムの成果が得点の向上として現れている。課外学習にライティング項目は無く、全面的に対面授業の成果と言える。注：Criterionの得点は0-6点

2

資料 1 - 3 - 1 大学教育改革フォーラム in 東海 2010

《出典 名大トピックス No. 203 <http://www.nagoya-u.ac.jp/about-nu/publication/topics/topics203.html>》

## 大学教育改革フォーラム in 東海2010を開催

●高等教育研究センター

高等教育研究センターは、3月13日(土)、IB電子情報館において、「大学教育改革フォーラム in 東海2010」を開催しました。これは、同センターが事務局を務めるFD・SDコンソーシアム及び名古屋フォーラム実行委員会の主催により、東海地域の各大学の教職員が一堂に会して、大学教育改善のための方策を率直に語り合うことを目的に行



ポスター発表の様子

われているもので、5回目の今回は273名の参加者がありました。

まず、山本副総長があいさつの中で、大学教育に対する社会の期待が高まっており、各大学が教育改善に取り組むことが必要、と指摘しました。続いて、金子元久東京大学教授による「グローバル化の中の大学教育改革」と題した講演が行われました。金子教授は、「学生に重層的な能力を獲得させ、新しい活動領域を支える人材に育てることを社会が求めている」と述べ、さらに、授業改善は学生の能力形成に効果的で参加型・双方向型授業をいっそう普及させることや、個々の大学が戦略的に改革を進めることが必要、と指摘しました。

今回は参加者の増加に伴い、「学士課程における科学基礎教育」、「大学院で大学職員のキャリアアップをめざす」、「学生の書く力をどのように伸ばすか」等、新しいセッションを増やし、例年を大きく上回る数のポスター発表を行いました。大学を取り巻く環境が厳しくなる中でも、各大学の教職員が教育充実、学生の学習支援のために地道な努力をしていることが理解でき、参加者同士、さらに取り組みを向上させることを確認し合いました。



資料1-3-8 「エース・ラボS」の基本構想  
 ー仲間と考えや想いを共有し新たな知を育む考想空間ー

《出典 概要説明資料から一部抜粋》

○平成21年度から着手した「教養教育の質向上を目指した基盤の整備ー自己教育力の養成を通じた国際標準のAcademic English教育」の事業目的は2つあります。

(1) Academic English教育←新・英語カリキュラム(AE支援, Writing支援各部門等)

(2) 自己教育力の養成←学習者個々の研鑽と学習者仲間による協調の場作り

エース・ラボSの基本構想は、上記(2)を補強・充実する学習環境基盤の構築です。

機会をつかみ、困難にいとみ、自律性と自発性を育む行動を基本とする「勇気ある知識人」が共通する目的に向かって、参画型コミュニティを形成し、知的な啓発を相互に繰返しながら卓越した教育研究成果を生み出すための、想像力を醸成する場です。

ACE Lab. S



ACE Lab. N



三葉配置による協調学習の構想図

名古屋大学全学教育物理学実験ビデオ教材

名古屋大学全学教育物理学実験のためのビデオ予習教材へようこそ。いくつかの実験テーマについて受講生の皆さんの自習の便宜を図るために実験操作の内容に絞ったビデオを用意しました。再生ボタンをクリックしてください。

	重力加速度	
	等電位線	
	磁場中の電子の運動	
	固体の比熱	
	回折格子による光の波長測定	
	放射能の測定	
	オシロスコープ・共振現象	
	物性ー液体窒素を使った実験ー	

このビデオはそれぞれの実験テーマの技術的な要点を5分程度にまとめたものです。物理の理論的な意味や実験の詳細な操作、レポートの作成方法などは実験テキストを参照してください。

学部・学系・学科によっての実験テーマを行うかは異なります。担当教員の指示に従ってください。

資料1-3-9 物理学実験予習用 e-Learning 教材画面

《出典 会議報告資料》

資料1-3-10 物理学実験報告より抜粋

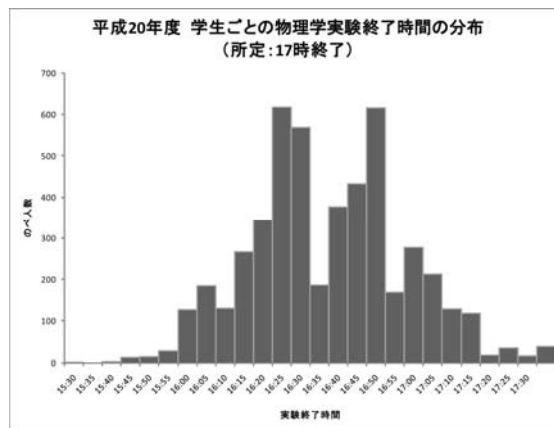
(3) 予習用 e ラーニングビデオ教材の制作と運用

実験の予習に供するための e ラーニングビデオ教材を制作し、学生に提供した。ビデオの視聴率は 4 割程度、テキストとビデオを合わせた予習履行率が 8 割程度と、学生の間で予習してから実験に臨む姿勢が身についた。

(4) 授業改善アンケートの結果

学生の実験内容の理解率、教員・TA の指導に対する評価、設備に対する評価が漸次向上している。予習についても昨年度 5 割弱であったのが、上記のように 8 割の学生が予習してくるようになった。

《出典 平成 20 年度全学教育物理学実験報告》



資料1-3-11 学生ごとの物理学実験終了時間の分布

資料1-3-12 「eFACE」の教材構成  
e (e-Learning) FACE (Foundations of Academic Communication in English)



英語の論理的な文章の理解と、自分の意見や考えの論理的なプレゼンテーションに必要な、議論の論理的な展開の仕方と、そうした議論の論理的な展開に必要な英語表現の「コア」となる知識を学びます。

教材の構成

Intro

学習シーン	内容
Intro	Unitのテーマに関連したクイズが出ます。

Reading

学習シーン	内容
Vocabulary	次の「Reading」で読む英語文章においてキーワードとなる単語の意味を確認します。
Reading	Unitのテーマに関連した英語文章を1つ読みます。
Comprehension	「Reading」で読んだ英語文章の内容を確認します。内容に関する問題が英語で8問出題されます。
Summary	「Reading」で読んだ英語文章の要約を行います。
Expressions	「Reading」で読んだ英語文章で使われた重要表現を覚えます。

Presentation

学習シーン	内容
Vocabulary	次の「Watching」で見るプレゼンテーションにおいてキーワードとなる単語の意味を確認します。
Watching 1	Unitのテーマに関連したプレゼンテーションを見ます。ここでは、テーマを把握します。
Watching 2	プレゼンテーションを再度見ます。ここでは、キーワードを聞き取ります。
Watching 3	プレゼンテーションを再度見ます。ここでは、プレゼンテーションの内容を大まかに把握します。
Focus	プレゼンテーションを3つのパートで見ていきます。それぞれのパートにおいて詳細な内容理解を目指します。
Summary	プレゼンテーションの要約を行います。
Q & A	プレゼンテーション後の質疑応答の練習問題を行います。
Expressions	プレゼンテーションおよびQ & A で使われた重要表現を覚えます。
Reconstruction	プレゼンテーションの文章の流れを把握し、次にくる文章を予測していきます。
Shadowing 1	プレゼンテーションのスピーチをシャドーイング(音声の後を追うように発話していく)します。テキストも表示されます。
Shadowing 2	プレゼンテーションのスピーチをシャドーイングします。プレゼンテーションの動画が表示されます。
Shadowing 3	プレゼンテーションのスピーチをシャドーイングします。プレゼンテーションのスライドが表示されます。
Shadowing 4	プレゼンテーションのスピーチをシャドーイングします。テキストは表示されません。
Shadowing-All	プレゼンテーションのスピーチをシャドーイングします。Shadowing 1~4のどの方法でもかまいません。5回練習すると、動画映像でほめてもらえます。

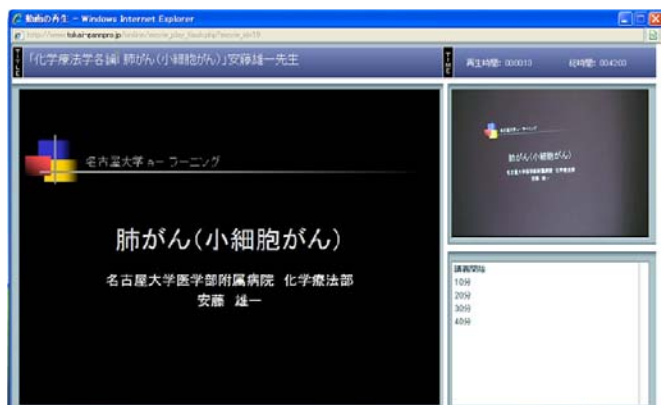
Unit test

学習シーン	内容
Unit test	Unitの復習テストです。

従来の「Shadowing」の訓練方法は音声のみを聞いて行うものでしたが、本教材では、それに加え、動画・スライド・テキストを使って4種類の方法であきずに何度でも行えるようになっていきます。(そのうえ、5回行うと褒めてもらえます!) 繰り返しプレゼンテーションの「Shadowing」をすることによって、プレゼンテーションでよく使われる英語表現を、耳から自然に覚えられるようになっていきます。

《 出典 教養教育院 e-Learning サイト  
http://elearn.kyoiku-in.nagoya-u.ac.jp/ 》

資料1-3-13 「がんプロフェッショナル養成プラン」事業作成 e-Learning コンテンツと受講者数



《 出典 がんプロフェッショナルプラン web サイト  
http://www.tokai-gannpro.jp/index.html 》

eラーニング受講者数一覧(平成21年度)

タイトル	名古屋大学	浜松医科大学	名城大学	岐阜大学	岐阜薬科大学	藤田医科大学	名古屋市立大学	愛知医科大学	合計
1 薬剤師がいなければ、緩和ケアは成り立たない	28	4	6	0	3	0	0	0	41
2 緩和医療・ケアについて	17	3	4	0	1	1	0	0	26
3 緩和ケアの実践—看護師の立場から—	20	0	1	0	0	0	0	0	21
4 頭頸部がん	24	2	12	0	0	0	0	0	38
5 癌の疫学	34	1	7	0	1	0	0	0	43
6 化学療法学 各論 I 15.乳がん	42	1	8	1	0	0	0	0	52
7 臨床腫瘍学総論 14.抗がん剤投与の実際 I	30	2	12	0	1	0	0	0	45
8 臨床腫瘍学 総論 7.臨床検査医学・腫瘍マーカー	19	0	8	2	0	0	0	0	29
9 緩和医療学と放射線療法学 放射線腫瘍学	24	1	7	0	0	0	0	0	32
10 緩和医療学と放射線療法学 粒子線治療	27	1	11	1	0	0	0	0	40
11 緩和医療学と放射線療法学 小線源治療	19	1	9	1	0	0	0	0	30
12 化学療法学各論 II 6.悪性リンパ腫	14	2	7	3	2	0	0	0	28
13 化学療法学各論 I 7.大腸がん	32	2	7	1	0	0	0	0	42
14 臨床腫瘍学総論 15.抗がん剤投与の実際 II	18	1	12	1	0	1	0	0	33
15 緩和医療学と放射線療法学各論 12.定位放射線治療	25	1	11	0	0	0	0	0	37
16 緩和医療学と放射線療法学各論 1.緩和医療学概論	28	2	8	0	0	0	0	0	38
17 化学療法学各論 I 肺がん(小細胞がん)	25	1	8	0	0	0	0	0	34
18 化学療法学各論 I 肺がん(非小細胞がん)	28	1	10	1	1	0	0	0	41
19 臨床腫瘍学基礎 II 形質細胞腫瘍	10	1	4	1	1	0	0	0	17
20 泌尿器系腫瘍	4	0	1	0	0	0	0	0	5
21 分子標的抗がん剤	7	1	5	0	0	0	0	0	13
22 がん薬物療法の臨床薬理	4	1	5	0	0	0	0	0	10
合計	479	29	163	12	10	2	0	0	667

資料1-4-1 南部食堂の全面増改築

ただ食事を済ませるだけの場所ではなく  
行けば誰かに会える場所  
行けば何かの刺激を受ける場所  
学生生活の大切な舞台のひとつとなる 居心地の良い食堂

- デザインコンセプト
- 断熱性の素材を用いることで、熱負荷の低減を図り結露防止・断熱性能の向上を図りました。開口部は複層ガラス(エコガラス)を採用。屋根は屋上緑化としました。
  - 大面積となる食堂の内部に、効率的に自然の光・風を呼びこむため、「庭」(外部)を引き込みました。
  - 1Fでは、見通しのできる大食堂を設け、300人規模の大パーティに対応。
  - 2Fでは、引き込まれた「庭」を囲むようにデッキを設け、外部環境の変化を身近に感じられる場所を設けました。またそれらの外部空間によって、内部空間を細分化し、選択性のある居心地の良い食堂としました。また小規模パーティ、会議、自習等のニーズに対応できるよう、間仕切りにて部屋を区画できるようにしました。
  - 引き込まれた「庭」を介して、1Fと2Fを視線でつなぐことで、空間に広がりをもたせました。また視線が行きか、それぞれの活動が垣間見えることで、相互利用を促すことができるよう配慮しました。
  - 内部空間の広がりをもそのまま外部に表出させることで、表面だけを著飾したものではない、奥行きのある外観としました。



【工事概要】

工 事 名	名古屋大学(東山)南部食堂新営その他工事
建 設 地	名古屋市千種区不老町(名古屋大学東山団地構内)
工事期間	平成 21年 6月 26日 ~ 平成 22年 2月 26日
延床面積	2,714.19 m <sup>2</sup>
建築面積	1,425.42 m <sup>2</sup>
構 造	鉄骨造 地上2階 地下1階建
基礎構造	地盤改良地業
階 高	BF 3.50m 1F 4.20m 2F 3.95m
外部仕上	壁: 角波ガルバリウム鋼板 金属サントイテパネル 屋根: 屋上緑化
内部仕上	床: ビニル床シート等 壁: 合成樹脂エマルジョンペイント塗等 天井: ロックウール化粧吸音板等
天 井 高	BF店舗 2.40m 1F食堂 3.15m 厨房・事務室 2.40m 2F食堂 3.00m 厨房・事務室 2.40m 便所、廊下 2.40m
基本設計	名古屋大学 施設管理部 名古屋大学 施設計画推進室
実施設計	株式会社 新建築研究所
監 理	名古屋大学 施設管理部
施 工	建築: 株式会社 丸栄 電気: カワキ電気機 機械: 北嶋工業機 EV: フジテック機



資料1-4-2 インターナショナルレジデンス山手新築

**建物の概要**  
本建物は、山手キャンパスの一角に国際交流会館(インターナショナルレジデンス山手)として建設された。敷地の形状から建物を南北軸とし、中央の外部廊下(ストリート)を挟んだ形で居室を配置している。名古屋大学では不足する留学生用宿舎の整備が課題となっており、本建物により106戸分が整備され、今後、II期計画として本建物の南側敷地に93戸分の整備が計画されている。

【工事概要】

工 事 名	名古屋大学(山手)国際交流会館新営工事
建 設 地	名古屋市昭和区山手通2丁目14-1 (名古屋大学山手団地構内)
工事期間	平成 21年 7月 10日 ~ 平成 22年 3月 15日
規 模	建築面積 1,003 m <sup>2</sup> 延床面積 2,009 m <sup>2</sup> 建物高さ 9.42m
構 造	壁式鉄筋コンクリート造 地上3階
外部仕上	磁器質タイル・杉板型枠コンクリート打ち放し・防水型複層塗材E
内部仕上	床 タイルカーペット・ビニル床シート 他 壁 ビニルクロス 他 天井 ビニルクロス 他
設 備	ミニキッチン、ユニットバス・トイレ、エアコン、非常押しボタン 他
外 構	駐輪場、ゴミ置場
基本設計	名古屋大学 施設管理部
実施設計	建築・電気・機械: 株式会社 明建築研究室
監 理	名古屋大学 施設管理部
施 工	建築・電気・機械: 株式会社 松井建設 機

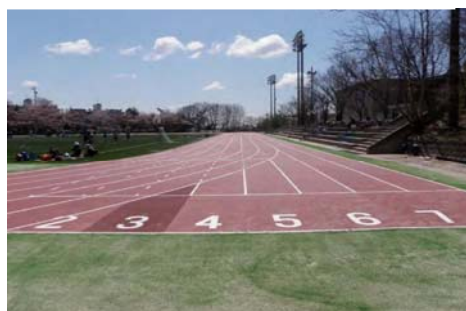


省エネルギー

省エネ対策として、通常より厚い断熱材の施工、複層ガラスの採用、屋根には遮熱シート防水を敷設する等、空調ランニングコストの低減を図っている。また、外部廊下の2層吹き抜けにより、自然採光による照明負荷の低減、各住居のシャロージャー(換気室)を利用した自然換気による空調への依存の抑制等が可能となる。

資料1-4-3

陸上競技場トラックの全天候化



資料1-4-1 ~ 1-4-3

《出典 施設管理部 web サイト

<http://web-honbu.jimu.nagoya-u.ac.jp/fmd/index.html> 》

資料 2-1-1 名古屋大学レクチャー

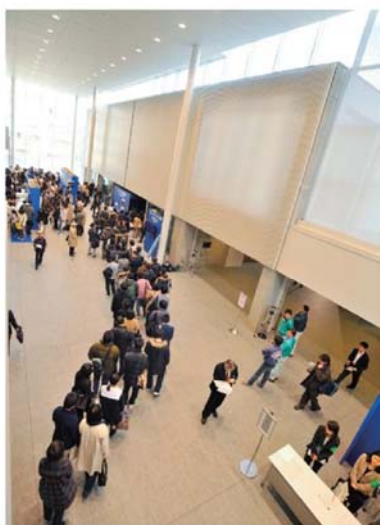


名古屋大学レクチャーシップ表彰授与式の様子

《出典 名大トピックス No. 190  
<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/topics/>》



ノーベル賞メダル展示の様子



オワンクラゲの見学に列を作る参加者



GFP を発光させる下村博士

《出典 名大トピックス No. 192  
<http://www.nagoya-u.ac.jp/about-nu/publication/topics/topics192.html>》



講演する安藤教授

資料 2-1-2  
 日本学士院賞受賞記念講演  
 《出典 名大トピックス No. 195  
<http://www.nagoya-u.ac.jp/about-nu/publication/topics/topics195.html>》

資料 2-1-3  
 グローバル COE 採択一覧

《出典  
<http://www.nagoya-u.ac.jp/research/activities/gcoe/>》

平成21年度		
分野	拠点のプログラム名称	拠点リーダー
学際、複合、新領域	地球学から基礎・臨床環境学への展開	地球水循環研究センター 安成 哲三教授
平成20年度		
分野	拠点のプログラム名称	拠点リーダー
医学系	機能分子医学への神経疾患・腫瘍の融合拠点	大学院医学系研究科 祖父江 元教授
数学、物理学、地球科学	宇宙基礎原理の探求 —素粒子から太陽系、宇宙に至る包括的理解—	大学院理学研究科 杉山 直教授
機械、土木、建築、その他工学	マイクロ・ナノメカトロニクス教育研究拠点	大学院工学研究科 福田 敏男教授
平成19年度		
分野	拠点のプログラム名称	拠点リーダー
生命科学	システム生命科学の展開：生命機能の設計	大学院理学研究科 近藤 孝男教授
化学、材料科学	分子性機能物質科学の国際教育研究拠点形成	物質科学国際研究センター 渡辺 芳人教授
人文科学	テキスト布置の解釈学的研究と教育	大学院文学研究科 佐藤 彰一教授

資料3-1-1 ノーベル賞受賞記念特別展



資料3-1-3 名古屋大学におけるノーベル賞研究展示



資料3-1-5 博物館入館者数の推移

年度	入館者数(人)	開館日数
平成16年度	8,805	235日
平成17年度	11,539	237日
平成18年度	11,320	245日
平成19年度	10,369	132日
平成20年度	17,406	202日
平成21年度	23,222	247日

資料3-1-6 「ふみよむゆふべ」活動状況  
 <<出典 附属図書館 web サイト

[http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/tomo/fumiyomu\\_kako.html](http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/tomo/fumiyomu_kako.html)

附属図書館友の会トークサロン「ふみよむゆふべ」平成20年度、平成21年度開催状況

開催日	タイトル	語り	参加者数
第19回 平成22年3月4日(木)	「ギリシア人の考えた『美しい死』: テュルタイオスのエレゲイアを読む」	吉武 純夫 准教授(大学院文学研究科)	34
第18回 平成21年12月4日(金)	「図書館員のヨーロッパ美術館巡り」	川瀬 正幸氏(京都大学附属図書館)	40
第17回 3回シリーズ	「座敷と伝統芸能 茶・花・香」	佐藤 豊三氏(徳川美術館 専門参与)	49
第1夜 平成21年9月16日(水)	「座敷の成立と香道」		39
第2夜 平成21年10月20日(火)	「座敷に飾られた花」		38
第3夜 平成21年11月24日(火)	「座敷と茶」		
第16回 平成21年6月17日(水)	「舞台の上で<ふみよ>をくよむ -シェイクスピア劇の場合-	滝川 睦 教授(名古屋大学文学研究科 英米文学研究室)	30
第15回 平成21年3月10日(火)	「そろばん今昔」	藤本 保紀氏(珠算史研究会会員・日本数学史学会会員)	31
第14回 平成20年12月3日(水)	「女性が学ぶということ - 日本文学にみる<女訓書>の世界 -」	榊原 千鶴 助教(大学院文学研究科)	31
第13回 平成20年9月9日(火)	「近代英語の成立 - ジョンソン, スウィフト, アダム・スミス -」	水田 洋 名誉教授	44
第12回 平成20年6月16日(月)	「天下人の画像賛」	斎藤 夏来 特任准教授(附属図書館研究開発室)	83

資料3-1-2 地球教室



資料3-1-4 コンサートの様子



資料3-1-7  
 全学同窓会海外支部  
 ≪出典 全学同窓会 web サイト  
<http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/> ≫

全学同窓会≪海外支部≫

支部名	設立年月日
韓国支部	平成17年5月5日
バングラデシュ支部	平成17年10月23日
上海名古屋大学同窓会 (上海支部)	平成17年11月11日
タイ国支部	平成17年12月14日
北京名古屋大学同窓会 (北京支部)	平成19年5月21日
ベトナム支部	平成19年9月7日
カンボジア支部	平成20年9月5日
モンゴル支部	平成21年9月3日
ウズベキスタン支部	平成22年3月11日

資料3-1-8 ホームカミングデイの様子  
 ≪出典 ホームカミングデイ web サイト  
<http://www.nagoya-u.ac.jp/home-coming-day/> ≫

ホームカミングデイ参加者数  
 第4回：平成20年10月18日開催 約4,500余名  
 第5回：平成21年10月24日開催 約4,200余名



学術講演会（第5回）



生物多様性を観察するため、  
 キャンパス雑木林の探索をする参加者（第5回）

ホームカミングデイは、卒業・修了生、在学生及びその家族、地域の方々等に、本学の教育・研究の活動状況や優れた成果を紹介するとともに、本学構成員との交流の場を提供し、本学の活動を理解してもらうことを目的として開催しています。

当日の運営には、名大祭本部実行委員会や陸上部、サッカー部、アメリカンフットボール部、剣道部、柔道部に所属する多くの学生が加わり、教職員と力を合わせ総合案内、会場整理などの業務にあたりました。



親子ふれあい野球教室（第5回）

資料3-1-9  
 名古屋大学創立70周年（創基138周年）記念行事の様子  
 ≪出典 名大トピックス No. 199  
<http://www.nagoya-u.ac.jp/about-nu/publication/topics/topics199.html> ≫



70周年記念フォーラムの様子



名古屋フィルハーモニー交響楽団コンサート

資料3-2-1 国際化拠点整備事業について

○「平成21年度補助事業実施計画」記載事項の実績

1. 留学生リクルート及び海外拠点拡充のための海外調査

- ① 留学生受入重点国等約20カ国で留学フェア及び教育機関訪問を行った。
- ② G30採択校と協力した広報や海外の雑誌等広告を掲載する等海外広報を行った。
- ③ ウズベキスタンに海外共同事務所を設置するために、調査、備品等の購入、職員の雇用を行い、平成22年3月11日にウズベキスタン事務所開所式を行った。

・・・中略・・・  
2. 教職員の公募・採用を行った。

- ① 優秀な学生の募集活動及び平成22年から行う国際プログラム群の入試業務のために、アドミッションオフィスを設置した。
- ② アドミッションオフィス、国際プログラム群や、学内国際化、宿舍対応、カウンセリング等留学生支援、就職支援のために、教員8名、職員12名を雇用した。

③ アドミッション及び、留学生支援事務を行う事務室を近隣に配置し、留学生の利便性を向上する「国際ゾーン」を設けた。

3. 教務関係・理系教材・補習教材等の英語化の開始及び英語図書・雑誌の購入

- ① 名古屋大学の規則・規程を55件、その他、留学生関連文書を111件英文化した。
- ② 理系基礎化学・物理実験テキスト、安全の手引き等を英語化した。また、実験の安全のためのDVDを作成した。

・・・中略・・・

10. 大阪大学・東京外国語大学等調査、関係シンポジウム・セミナー等参加

- ① 東京外国語大学の予備教育課程で行われている、理系の補習などを調査し、海外の未履修教科の実態を確認し、理系教材の開発に役立てた。
- ② 日本語・アドミッション・カウンセリング等の国際関係・留学生支援関係のシンポジウム・セミナーに教職員を派遣した。

○その他の実績

1. 平成23年10月に開設される英語による学位取得プログラム（国際プログラム群）の準備を行った。

- ① 募集要項の作成、カリキュラムの充実、教材の開発、英語の参考書及び参考図書等の購入を行った。

・・・以下省略・・・

《出典 平成21年度国際化拠点整備事業費補助金（国際化拠点整備事業）実績報告書》

